

環境報告書

2020

2020/4/1-2021/3/31





目次

- ▶ I. トップメッセージ
- ▶ II. 環境理念・環境方針・環境活動推進体制・コーポレートガバナンス体制
- ▶ III. 会社概要・事業概要
- ▶ IV. 工場周辺の環境に対する取り組み
 - ・ばい煙測定　・騒音、振動調査　・臭気測定　・排水浄化の取り組み
- ▶ V. 地球温暖化防止への取り組み
 - ・工場での取り組み　・事業所での取り組み　・営業活動での取り組み
- ▶ VI. 環境コミュニケーション　CSR活動報告
- ▶ VII. 工場における物質とエネルギーの流れ
- ▶ VIII. 環境目標および実績
- ▶ IX. 当社全事業所のエネルギー使用量
- ▶ X. 環境関連法規への違反・訴訟の有無

この環境報告書について

- ▶ 焼津水産化学工業グループは日本、東アジア、東南アジアを主要地域として、「調味料」「機能食品」「水産物」「その他」の4領域で事業を行っています。

焼津水産化学工業グループは、天然素材の持つ無限の可能性を追求し、“おいしさと健康”を通して豊かな生活に貢献することを企業理念とし、ステークホルダー向けの「10の約束」の1つとして、「環境保全に努め、地球環境にやさしい活動を行う」ことを定めています。

この報告書は、当社グループのこのような環境に配慮した姿勢と、環境負荷の低減を図る活動の進捗状況を確認するとともに、ステークホルダーの皆さまにお知らせすることを目的とし、作成しました。

- ▶ 報告対象期間：
2020年度(2020年4月1日～2021年3月31日)
- ▶ 記載対象範囲：
焼津水産化学工業株式会社 全事業所
※「工場における物質とエネルギーの流れ」および「環境目標および実績」：工場のみ
- ▶ 参照したガイドライン：
環境省「環境報告ガイドライン」(2012年度版)

企業理念

焼津水産化学工業グループは、
天然素材の持つ無限の可能性を追求し、
“おいしさと健康”を通して
豊かな生活に貢献します。

トップメッセージ

当社では、2022年3月までの3カ年中期経営計画「Create Next YSK」に基づき、「顧客の信頼回復」「品質保証体制の抜本的見直し」「差別化とフィールド拡大による成長」、「海外事業のステージアップ」、「新規事業育成」の5つを基本戦略として活動を推進しています。

当社が天然素材を原料として製造し販売する製品は、人々の基本的な要求である“おいしさと健康”に正面から向き合った結果生まれたものです。今後も天然素材の無限の可能性を追求し、価値あるものづくりを続け、人々の豊かな生活に貢献するためには、社員一人一人が地球の恵みに感謝し、持続的な発展のための意識を強く持って活動していくことが求められます。

温暖化をはじめとする地球環境の変化は、天然素材を事業のベースに置いている当社にとって、強く意識しなければならない現象であります。事業活動に伴うさまざまな環境への負荷を真剣に受け止め、全社一丸となって環境教育、省エネルギー・省資源、廃棄物の削減、リサイクルの推進活動に努めてまいります。

2020年度は、不正表示対応に伴い製品生産量が増加し、さらに小ロットでの生産を多く行ったため、CO2排出量、排水量、エネルギー使用量が増加しました。2020年度に設定しました環境目標のうち、「CO2排出量原単位 前年比1%削減」、「水使用量原単位 35m³/t以下」は達成できませんでしたが、「廃棄物のリサイクル率 90%以上」については、目標値を達成しました。

次年度は、生産体制の見直しや業務の効率化を進め、生産性の向上により環境目標を達成すべく取り組みを強化してまいります。

代表取締役社長

山田潤



環境理念

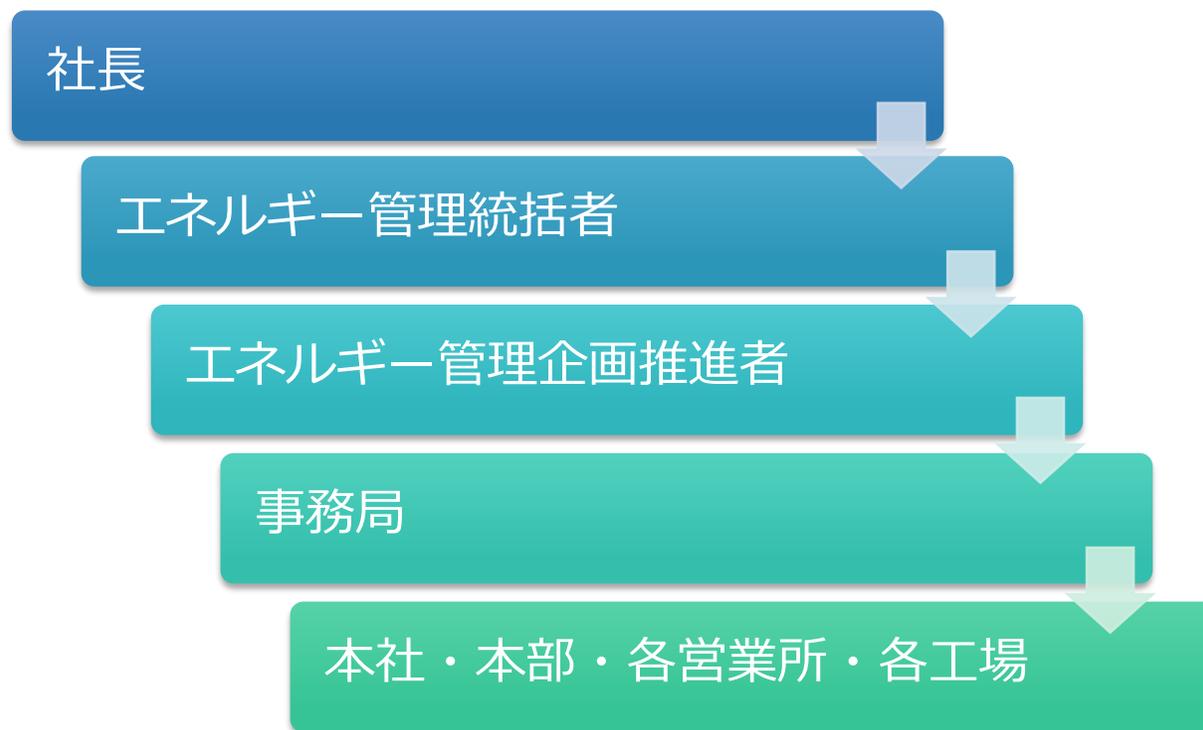
すべての企業活動において環境保全に努め、資源やエネルギーの有効活用など、地球にやさしい取り組みを積極的に行います。

環境方針

- ▶ 法令を順守するとともに、環境マネジメントシステムを構築し、自主的な目標を設定して環境問題に取り組み、持続的な改善に努めます。
- ▶ 全ての事業活動において、省エネルギー、省資源、廃棄物排出抑制、リサイクルを推進します。
- ▶ 環境に配慮した製品の開発に努めます。
- ▶ 社員一人ひとりの環境教育に努め、環境を大切にする企業風土をつくります。
- ▶ 環境情報を開示し、協力会社、社会とのコミュニケーションを推進します。

環境活動推進体制

当社のエネルギー管理体制は、「エネルギーの使用の合理化に関する法律」(省エネ法)に基づき、社長をトップとした組織で運営・管理しています。

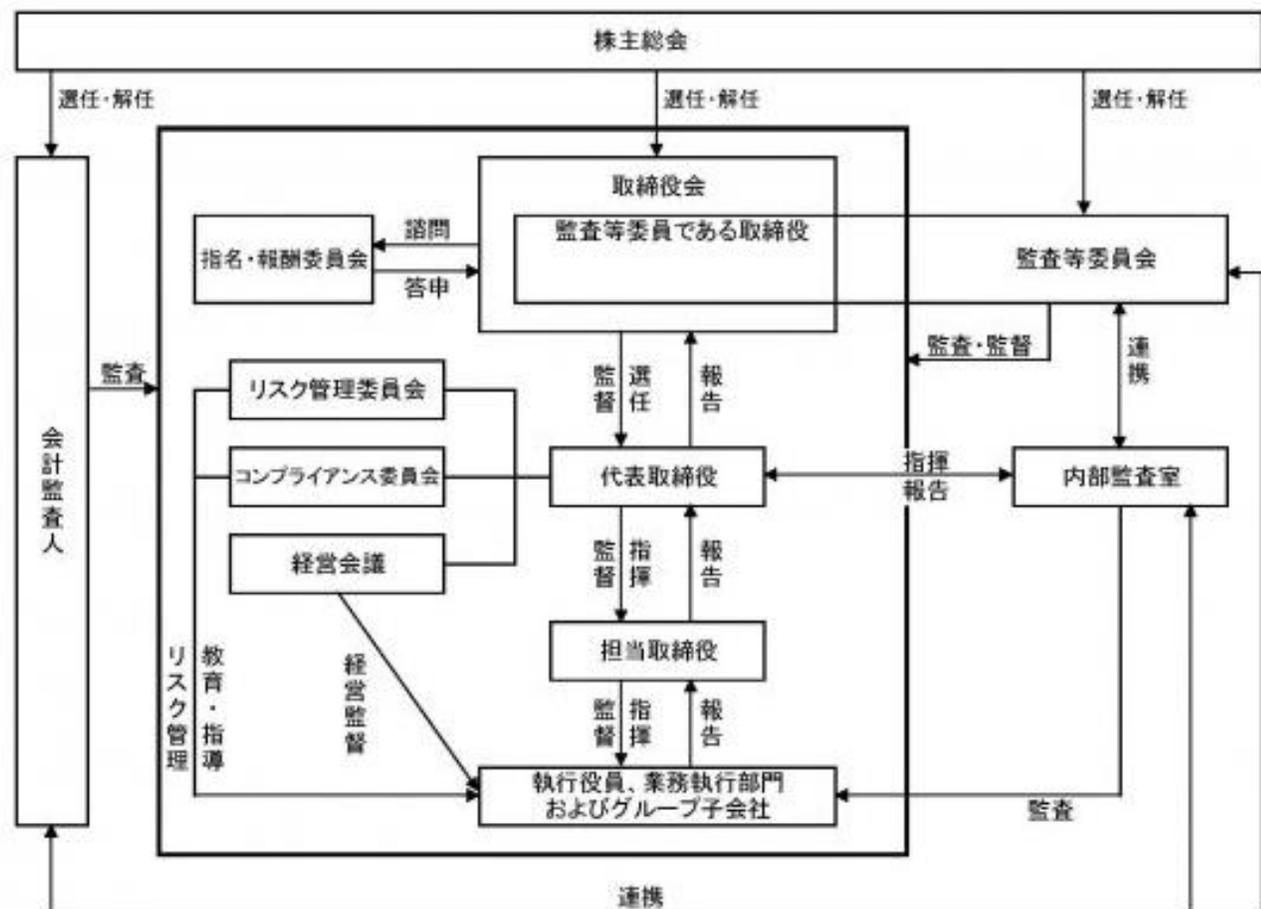


コーポレートガバナンス体制 およびリスク管理体制

当社はステークホルダーからの信頼を高め、企業価値を最大化するため、子会社を含むコーポレートガバナンスの強化・充実を経営の最重要課題として位置付けています。

取締役会では子会社を含む経営計画の監督を実施し、監査等委員会は、取締役会はもとより内部監査室、会計監査人との連携により、実効性のある監査・監督を実施しています。

リスクについては、取締役会で審議するだけでなく、全取締役と一部の管理職で構成されるリスク管理委員会を設置し、当社グループ全体で発生が予想されるリスク及び発生したクライシスへの対応についての報告、対応策の決定等、リスク管理上の重要な問題を審議しています。



会社概要(2021年3月末現在)

- ▶ 会社名 焼津水産化学工業株式会社
YAIZU SUISANKAGAKU INDUSTRY CO.,LTD
- ▶ 本社 〒425-8570 静岡県焼津市小川新町五丁目8番13号
- ▶ 主な事業所 静岡本部、焼津本社
東京営業所、大阪営業所、中部営業所、九州営業所
焼津・団地工場、大東工場、掛川工場
- ▶ 創業 1959年
- ▶ 資本金 36億1,700万円
- ▶ 従業員 190名(単体)、223名(連結)



事業概要(2021年3月末現在)

- ▶ 天然調味料、機能性食品の製造・販売
- ▶ 水産物事業、その他食品の製造・販売

当社は1959年に、魚の残渣から飼料・肥料の製造および肝油製造を目的に設立されました。まもなくエキス調味料の製造に方針を転換、天然調味料や乾燥食品へと製品の幅を広げていきました。

1980年以降には機能性素材の開発を本格的に開始、当時、肥料化するしか用途のなかったカニ殻からキチン、キトサンを精製し、販売を始めました。これを出発点にキチンオリゴ糖、N-アセチルグルコサミンを製造、この技術を活かして海洋性のアンセリン、フコース、コラーゲンなどの機能性新素材を世に送り出しています。





冷凍食品
Frozen foods

スープ
Soup stock for noodles

ドレッシング
Salad dressings

機能性飲料
Nutritious drinks

肥料
fertilizer

01 液体調味料
Liquid Seasonings

- 魚介エキス
 - 鰹節・昆布エキス
 - 煮干エキス
 - カニ・エビエキス
- 畜肉・野菜エキス
 - チキンエキス
 - ポークエキス
 - 野菜エキス
 - 椎茸エキス
- 調味オイル
 - 魚介オイル
 - 香味野菜オイル

03 機能性素材
Functional Materials

- N-アセチルグルコサミン
- アンセリン
- キチン
- キチンオリゴ糖
- キトサン
- キトサンオリゴ糖
- グルコサミン
- フィッシュコラーゲン
- コンドロイチン硫酸
- フコイダン
- チアフラビン

04 B to C
Business to Consumer

サプリメント
Dietary supplements

化粧品
Cosmetics

- 食品
- 化粧品
- 農業用資材
- トイレットリ

02 粉体調味料
Powdered Seasonings

- エキスパウダー
 - 魚介エキスパウダー
 - 畜肉エキスパウダー
 - 粉末醤油
- 果汁パウダー
 - オレンジ
 - ストロベリー
 - バナナ
- 節類粉末
 - 鰹節
 - 煮干

- 乾燥具材
 - 味付鰹節
 - 乾燥海産物
 - 乾燥農産物
- 調味顆粒
 - 低塩調味料
 - コンソメ
 - だし顆粒

スイーツ
Sweets

お茶漬け
Ochazuke
(Rice with green tea)

かにかまぼこ
Imitation crab

スナック
Snacks

ふりかけ
Furikake
(Seasoning mix for rice)

即席麺
Instant noodles

外食産業
Restaurants

風味調味料
Powdered soup stock

国内の食品メーカーをはじめ、健康・医療・美容関連の企業が、当社の調味料や機能性素材を原材料にしてさまざまな商品を製造し、市場に送り出しています。

このイラストは、その商品市場のアウトラインです。

このように当社の調味料や乾燥食品からは、だしの素、めん類のつゆ、即席めん、冷凍食品、カニかまぼこ、スイーツ類、スナック菓子、ふりかけ、お茶漬けなど、実に幅広い商品が生まれます。

機能性素材からは各種サプリメントや機能性飲料、化粧品などが作られています。

2001年には東京証券取引所 市場第1部へ上場、2019年3月には創立60周年を迎えました。2002年には、国際的な品質マネジメントシステム認証であるISO9001を全社で取得しています。顧客満足の上昇のため、当社では継続して、品質向上に取り組んでいます。2018年には主力の掛川工場にて国際的な食品安全システム認証であるFSSC22000を取得し、更なる顧客満足と食品安全の確保に注力しています。現在、焼津・団地、大東の各工場でも同認証を取得すべく、受審中です。

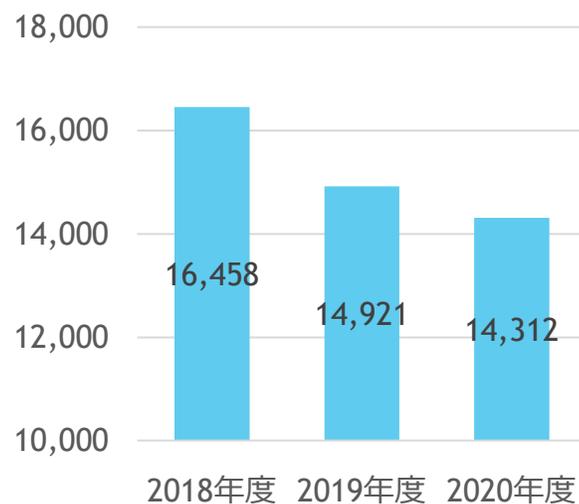
現在、魚介類を原料とする天然調味料のリーディングカンパニーであり、健康や美容に関わる機能性素材の研究・製造でも高い評価を得ています。当社は研究開発型企業としても道を更に一段と力強く前進します。

財務報告

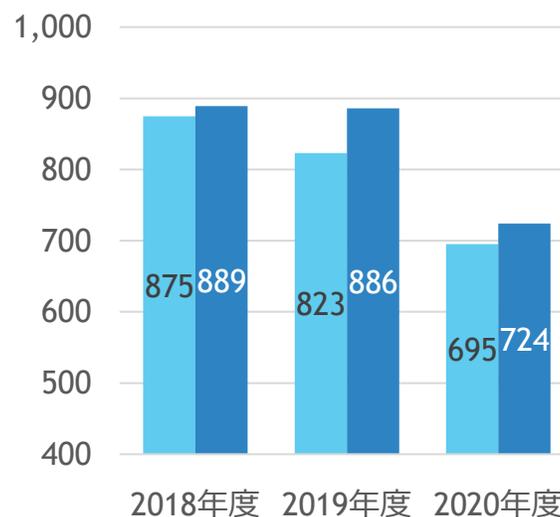
損益概要(2018年度～2020年度)

※単位は百万円

連結売上高

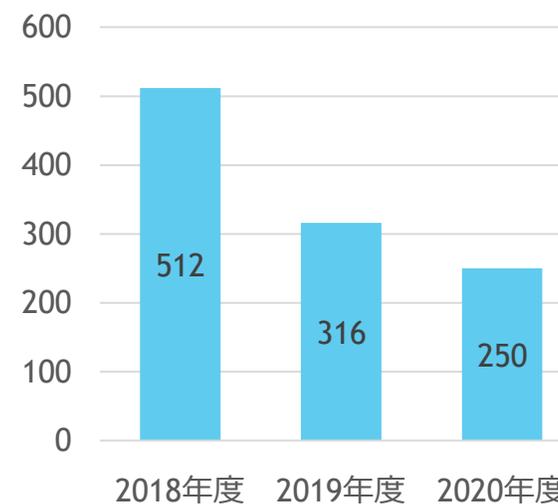


連結営業利益 連結経常利益



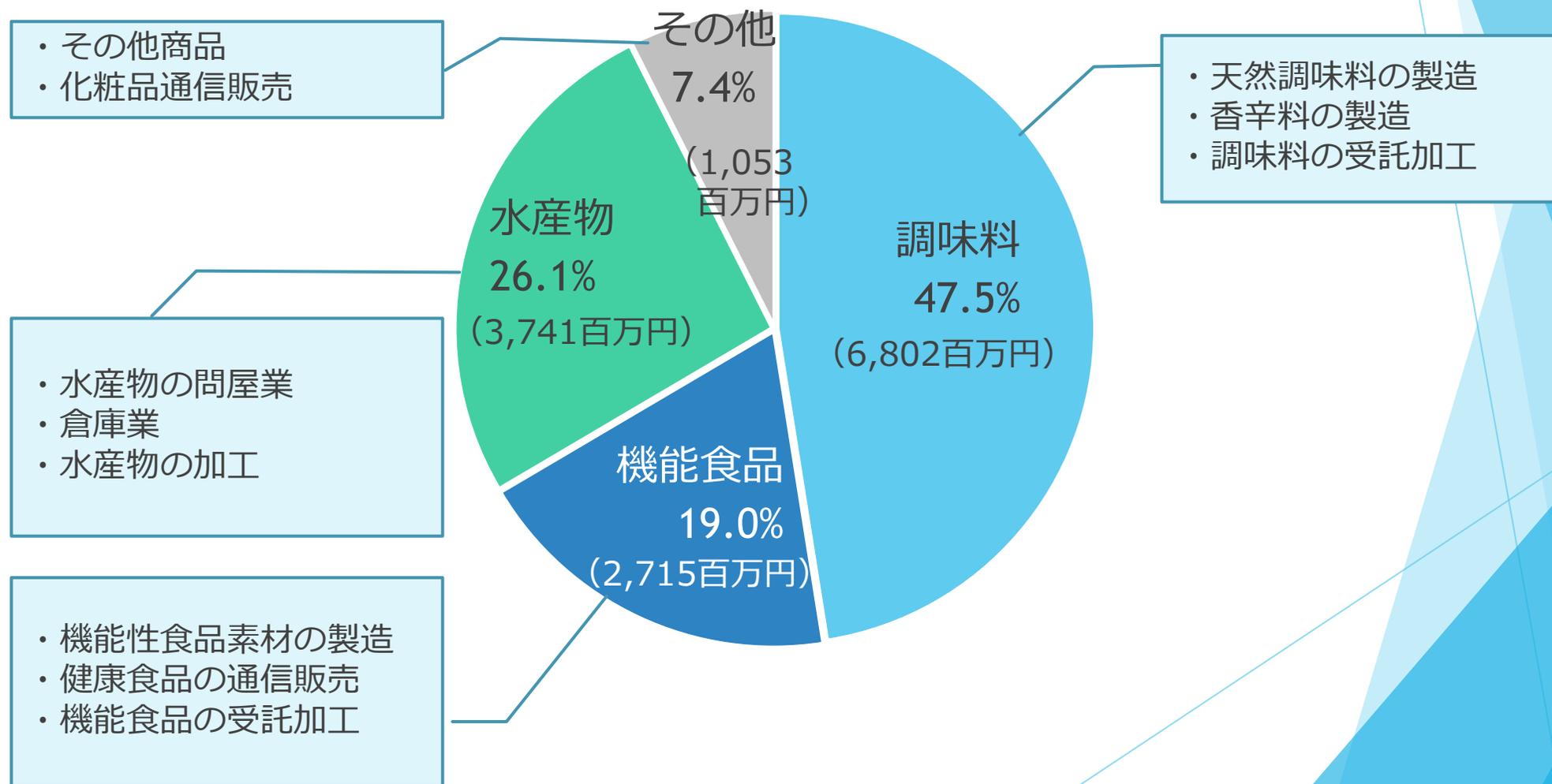
■ 連結営業利益 ■ 連結経常利益

当期純利益



財務報告

セグメント別売上高(2020年度)



工場周辺の環境に対する 取り組み

当社の掛川工場、大東工場の2工場では、工場敷地の境界で定期的に臭い、騒音、振動の測定をしています。騒音・振動の測定結果については、掛川市に報告しており、2020年度も問題のないことが確認されています。

▶ ばい煙測定 <外部業者に委託>

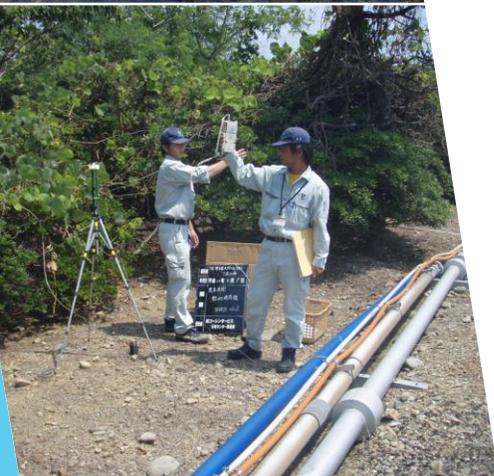
大気汚染防止法に基づき、年2回実施しています。
当社は全ての工場で、ボイラー燃料を重油からLNGへ転換しており、硫黄酸化物の排出量がほぼゼロとなりました。

▶ 騒音・振動調査

騒音・振動規制法に基づき、年2回実施しています。
検査結果は市役所に提出しています。

▶ 臭気測定 <外部業者に委託>

掛川市との協定に基づき、年1回実施しています。



▶ 排水浄化の取り組み

当社は全工場で、年間約25万 m^3 の水を排出しています。そのうち、焼津・団地工場(焼津市)では、水産加工団地の共同排水処理施設に委託処理していますが、大東工場、掛川工場(ともに掛川市)では自社設備で排水を浄化して河川に放流しています。

当社の処理施設では、有機物を微生物によって分解する「活性汚泥法」によって約2日間かけて浄化しています。「活性汚泥法」は有機物を分解する微生物を活性化することが重要です。

大東工場の排水処理施設では、空気を微細な穴に通すことで細かい泡を作る「超微細気泡散気装置」を用い、排水の中の酸素量を増やすことで微生物を活性化し、浄化効果を高めています。また、牡蠣の殻を使って浄化するシステムも取り入れています。これは、微生物が牡蠣の殻にある細かい穴に棲みつきやすい性質を利用したものです。

掛川工場の排水処理施設では、臭気対策として処理場全体をコンクリートで覆っています。さらに、調整層、曝気槽の一部は暗渠構造となっており、臭気の大部分を抑えています。

浄化された水は、日々状態を確認して放流しており、月1回はpH(水素イオン濃度)、BOD(生物化学的酸素要求量)、SS(浮遊物質)、大腸菌群など6項目を法的な基準に応じて、外部機関に委託し、放流水検査を行っています。さらに、年に1回は掛川市協定に基づき、外部機関に委託し、43項目の検査を実施しています。

浄化処理で発生する余分な汚泥については、協力業者に委託して肥料化し、自然のサイクルに戻しています。



掛川工場排水処理設備



大東工場排水処理設備

地球温暖化防止への取り組み

▶ 1.工場での取り組み

- ・ガソリンフォークリフトの廃止、さらにLPガスリフトから充電式リフトへ転換を行っています。2021年3月末現在で、全29台全てを充電式リフトに転換しました。

▶ 2.オフィスでの取り組み

- ・オフィスにおける省エネルギーを一層強化するために、2021年度は5月から10月までクールビズを、11月から3月までウォームビズを実施しました。また、各事業所での休憩時間の照明OFFを推奨し、電力の削減に努めています。

▶ 3.営業活動での取り組み

- ・低燃費、低排出ガスのエコカー導入を積極的に進めています。2021年3月末時点では、乗用車28台のうち、20台がハイブリッド車、1台が低燃費タイプの軽自動車です。

環境コミュニケーション・CSR活動報告

①本社のある焼津市で、定期的に地域清掃活動（焼津の海岸）を行っています。
2019年度は11月に1回実施し、20名を超える社員が参加しました。

2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響で清掃活動を休止しています。

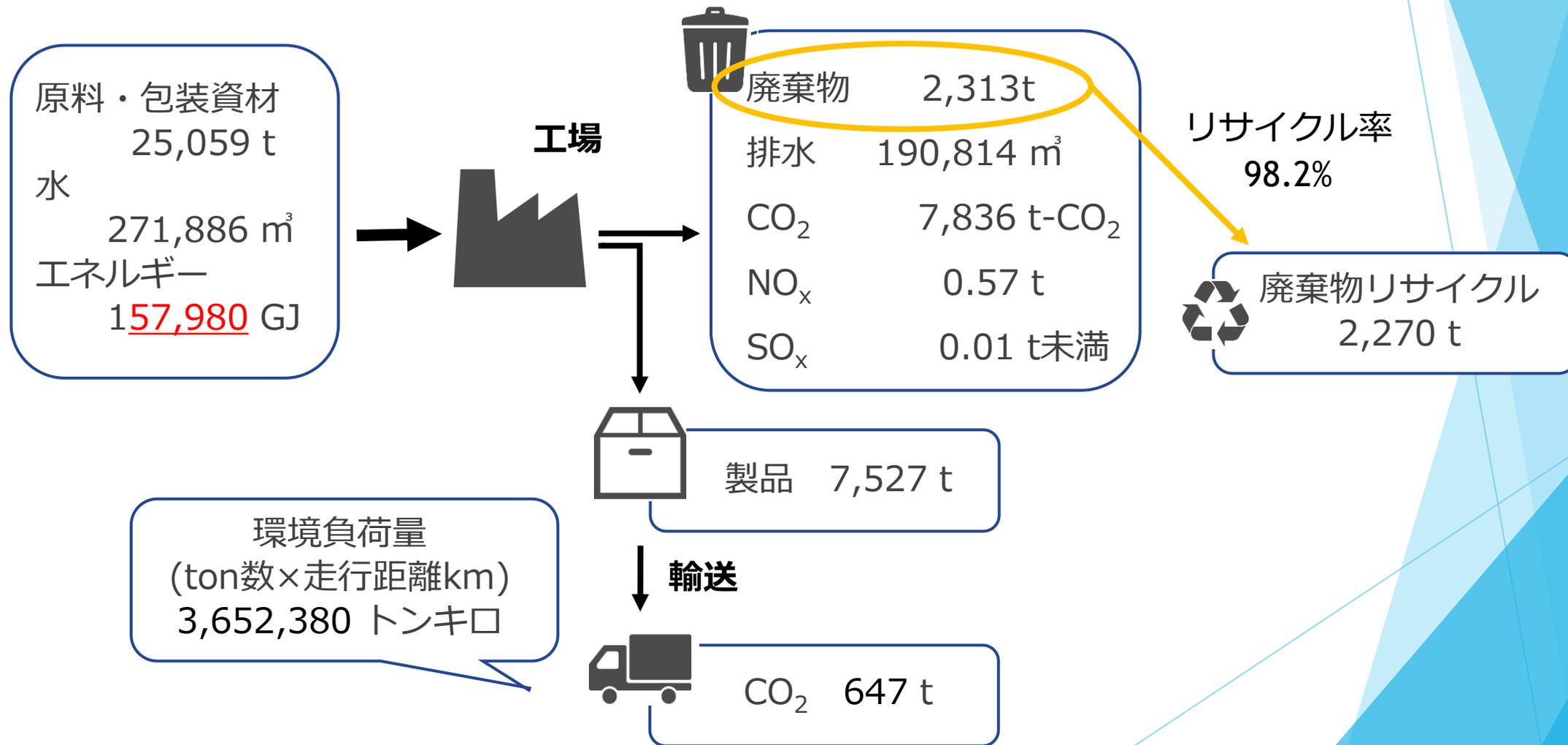
(下記の写真は2019年度の活動の様子です)



②昨年引き続き、2021年3月に、本社のある焼津市小川地区の学童保育へ飲料を提供しました。



工場における物質とエネルギーの流れ



環境目標および実績

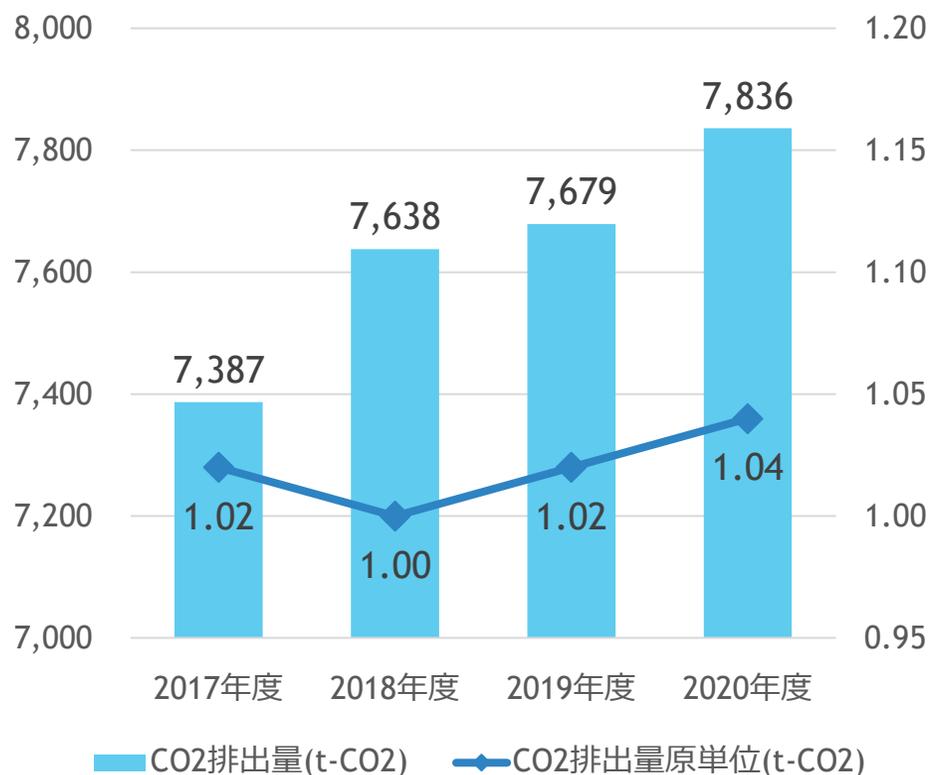
2020年度は、当社製品の不正表示対応に伴い製品品目数が増加し、非効率な小ロットでの生産が多い状態となったため、エネルギー使用量、CO₂排出量、水使用量、排水量が増加しました。

2020年度に設定しました環境目標のうち、「CO₂排出量原単位 前年比1%削減」「水使用量原単位 35m³/t以下」は達成できませんでしたが、「廃棄物のリサイクル率 90%以上」については達成となりました。

※ 原単位とは製品トンあたりの使用量・排出量を表す

環境目標および実績

環境目標 1 : CO₂排出量原単位 前年比1%削減



CO₂排出量は不正表示対応に伴う非効率な生産が増加したため、エネルギー使用量が増加し、前年と比較し157t-CO₂(2.0%)増加し、7,836t-CO₂となりました。

原単位についても、製造数量は微増に留まったため、CO₂排出量原単位は前年と比較し、0.02t-CO₂(2.0%)増加し、1.04t-CO₂となりました。

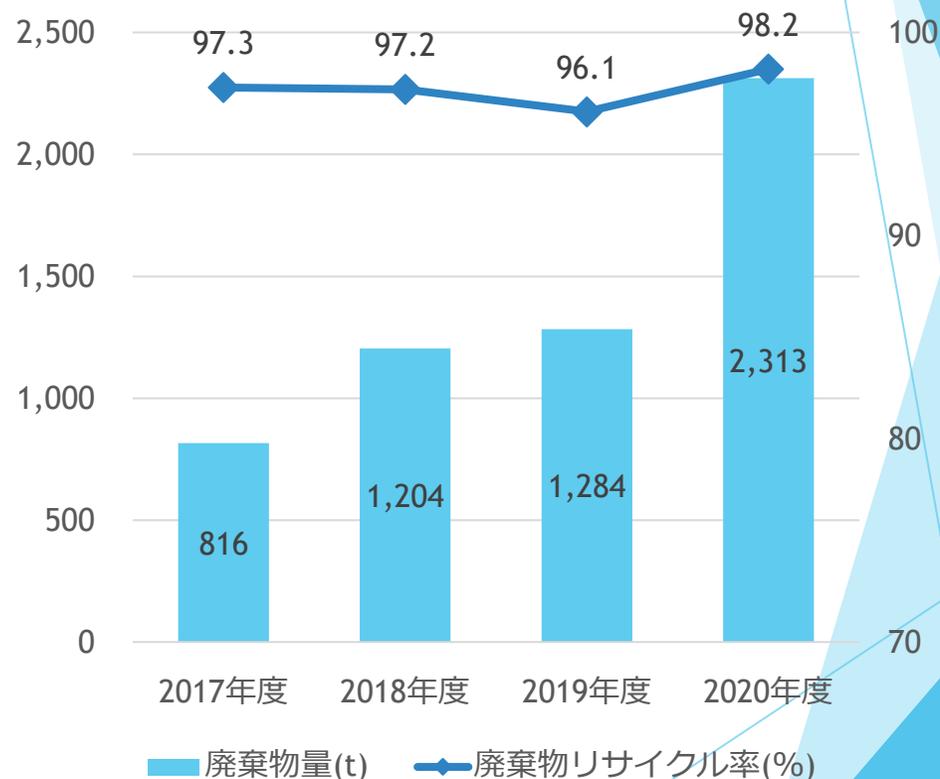
結果として、前年比1%削減という2020年度の環境目標は未達成となりました。

環境目標および実績

環境目標2：廃棄物のリサイクル率90%以上

2020年度の廃棄物量は、不正表示対応に伴う廃棄の増加により、前年比1,029t(80.1%)増加し、2,313tとなりましたが、そのうち98.2%の2,270tがリサイクルされています。

リサイクル率は2.1%増加し98.2%となったことから、環境目標である90%以上をクリアした状態を引き続き維持できました。



環境目標および実績

環境目標3：水使用原単位 35m³/t以下



水使用量は、前年と比較し21千m³(8.4%)増加し、271千m³となりました。水使用量原単位についても3.0m³/t(9.2%)増加し、36.1m³/tとなりました。

2020年度の水使用原単位は36.1m³/tとなり、環境目標は達成できませんでした。



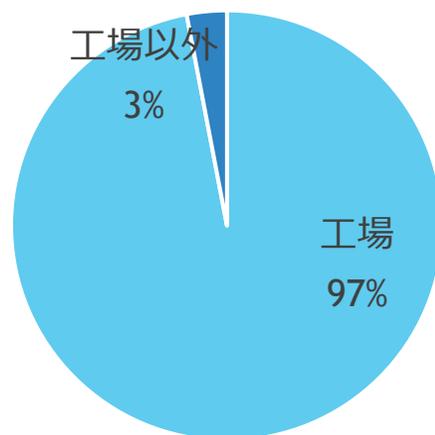
排水量は、前年と比較し10千m³(5.6%)増加し、190m³となりました。排水量原単位についても、1.6m³/t(6.6%)増加し、25.4m³/tとなりました。

2021年度の環境目標

1. CO2排出量原単位 前年比1%削減
2. 廃棄物リサイクル率90%以上
3. 水使用原単位 $35\text{m}^3/\text{t}$ 以下

当社事業所のエネルギー使用量

全事業所のエネルギー使用量



- ▶ 当社全事業所の2020年度のエネルギー使用量は164千GJで、その約97%を工場で使用しています。
- ▶ 工場でのエネルギー使用量は前年と比較し2.6%増加しましたが、生産量の伸びに比較しエネルギー使用量の伸びを抑制し、原単位は0.5%減少しました。

環境関連法規への違反・訴訟の有無

2020年度において、環境関連法規の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。また、関係当局による違反の指摘および訴訟は過去3年間ありませんでした。

	2018年度	2019年度	2020年度
環境に関する法令違反	なし	なし	なし
環境に関する訴訟・罰金等	なし	なし	なし

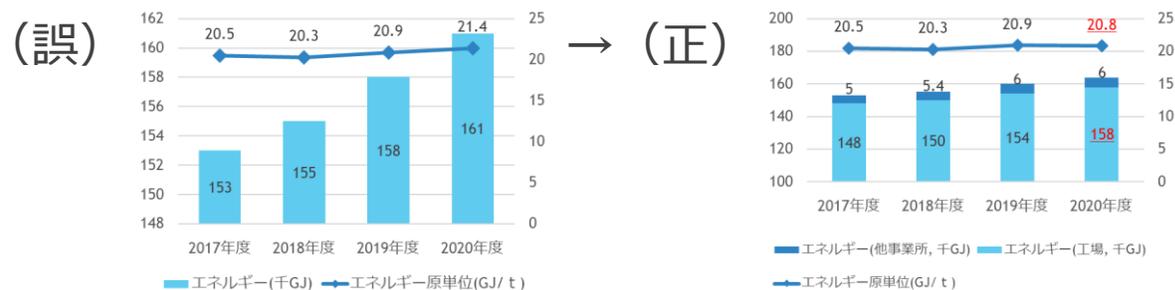
修正履歴

2022年3月1日 新規発行

2022年12月1日 一部修正

p.20 工場のエネルギー使用量 (誤) 161,007GJ → (正) 157,980GJ

p.26 グラフ修正 (エネルギーを工場・事業所に区分表記、一部数値修正)





焼津水産化学工業株式会社

静岡県静岡市駿河区南町11-1 6F

TEL : 054-202-6030

FAX : 054-202-6031

本環境報告書は2022年11月1日に発行しました。
当社ホームページから環境報告書PDFを
ダウンロードできます。

URL : <http://www.yskf.jp/company/csr.html>